

# 平成26年度宮古群島病害虫発生予報第10号(1月予報)

## I 1月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	30	40	20
平年並	40	40	40
低い(少ない)	30	20	40

(平成26年12月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	18.0	20.4	16.0	130.8	86.4

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 12月の発生予報および防除上の注意事項

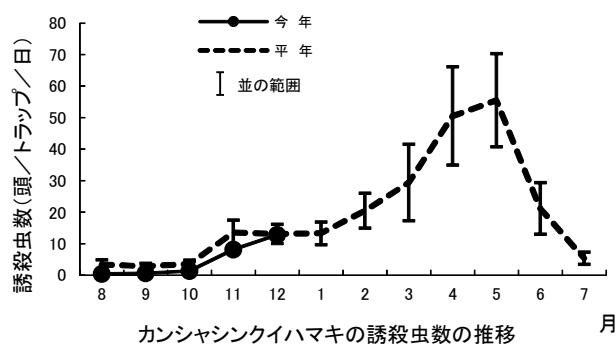
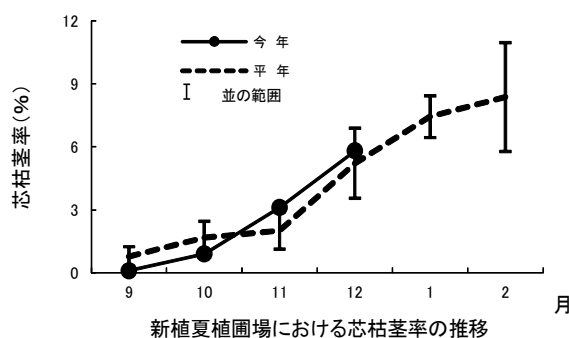
### 1 さとうきび

#### (1) カンシャシンクイハマキ

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 12月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は5.8%(前年2.3%、平年5.3%)と平年並であった。
- b 12月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は12.8頭(前年16.4頭、平年13.1頭)と平年並であった。

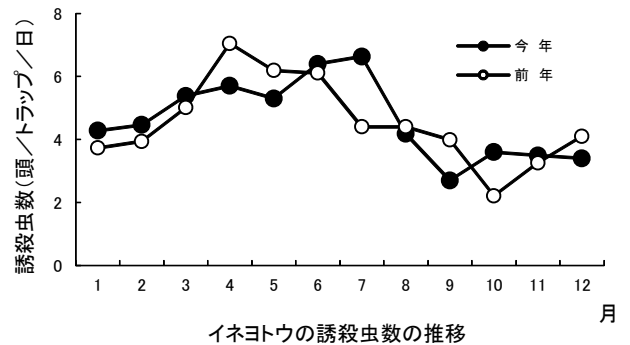
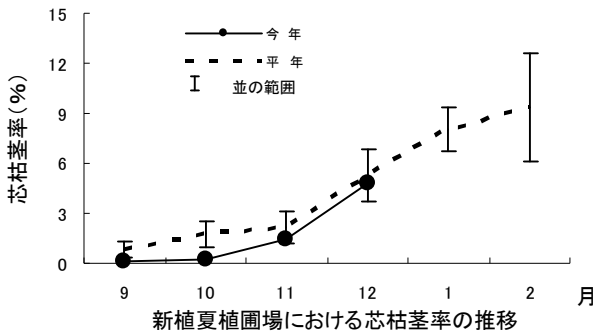


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に葉液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号参照(平成24年6月11日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 12月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は5.8%(前年4.8%、平年5.2%)と平年並であった。
- b 12月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.4頭(前年4.1頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成25年度病害虫発生予報第6号(平成25年8月30日付)号コラム参照。

○ コガネムシ類幼虫(アオドウガネ・ケブカアカチャコガネ)の防除対策

- a 12月中・下旬の掘り取り調査の結果、アオドウガネの株当たり幼虫数は0.1頭(前年0.1頭、平年0.5頭)、ケブカアカチャコガネの株当たり幼虫数は0.1頭(前年0.1頭、平年0.7頭)と平年よりやや少なかった。
- b 立枯れがみられるほ場は早期に収穫し、収穫後は速やかに耕耘して、幼虫密度の低減を図る。

## 2 マンゴー

○ チャノキイロアザミウマの防除対策

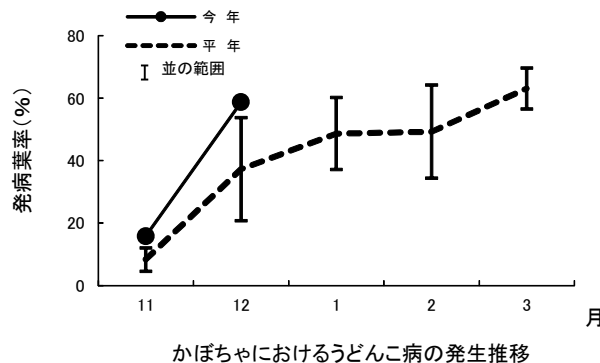
- a 12月中旬の調査の結果、一部ほ場で多発していた。
- b 不要な新葉を除去し、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

## 3 かぼちゃ

(1) うどんこ病

発生程度 : やや多  
予報の根拠

12月中旬の調査の結果、発病葉率は58.7%(前年26.4%、平年37.2%)と平年よりやや高かった。

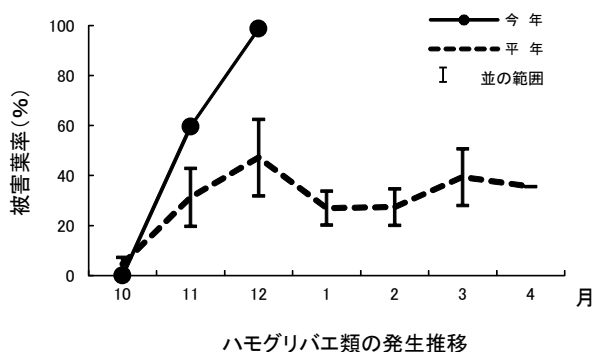


<防除上注意すべき事項>

- a 発生源となる株元の不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- b 着果期以降、草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。

(1) ハモグリバエ類  
発生程度：多  
予報の根拠

12月中旬の調査の結果、被害葉率は99.7%(前年54.8%、平年47.2%)と平年より高かった。



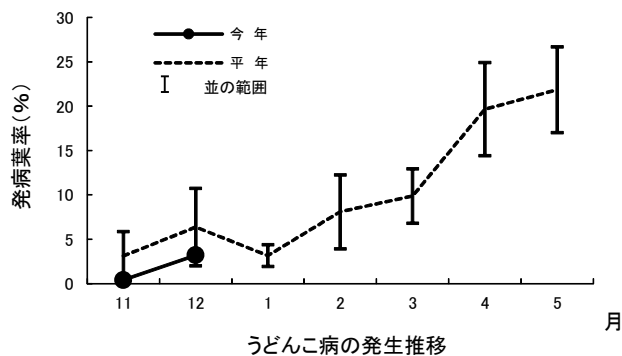
<防除上注意すべき事項>

- ほ場内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- 幼虫期間が比較的に短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- 農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。

#### 4 にかうり(施設)

(1) うどんこ病  
発生程度：並  
予報の根拠

12月中旬の調査の結果、発病葉率は3.2%(前年1.8%、平年6.4%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 発生源となる不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- 除去した葉はほ場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- 薬剤防除は予防散布に重点をおく。